

バスクリンのエコレポート

(2015年度の活動結果)



株式会社バスクリン

第7号

発行：2016年8月23日

目 次

1.会社概要	P-2
2.対象範囲	P-2
3.環境方針	P-4
4.環境目標とその実績		
4.1 環境目標	P-5
4.2 活動実績	P-6
5.2015年度の主要な環境活動計画	P-7
6.環境活動取組結果の評価	P-8
7.2016年1月以降の取組み内容	P-8
8.環境関連法規制への違反、訴訟等の有無	P-9
9.代表者による全体評価と見直し結果	P-10
10.環境経営推進体制		
・環境組織図	P-11
11.環境省より表彰されました	P-11
12.社内活動のトピックス	P-12
13.工場での取り組み	P-13

1. 会社概要

(1) 事業所及び代表者氏名

事業所名 : 株式会社バスクリン

代表者氏名 : 代表取締役社長 古賀 和則

(2) 所在地 : 〒102-0073

東京都千代田区九段北 4-1-7 九段センタービル 8F

(3) 環境管理責任者氏名 : 総務部長 久保 康一

連絡先 T E L : 03-3511-5811 F A X : 03-3511-5820

(4) 事業概要 : 医薬部外品(入浴剤、育毛剤等)・化粧品・雑貨の開発・製造・販売

(5) 事業規模 (2015年12月現在)

項目	単位	本社	静岡工場	つくば研究所	東日本営業所 東京支店	名古屋支店	大阪支店	福岡営業所	合計
従業員数	人	70	68	35	43	10	17	7	250
敷地面積	m ²	620	19,175	3,127	150	145	250	113	23,580
床面積	m ²	620	10,744	2,033	150	145	250	113	14,055

2. 対象範囲

① 認証・登録の業務: 医薬部外品(入浴剤、育毛剤等)・化粧品・雑貨・医薬品・食品の開発・製造・販売

②認証・登録の範囲

本社 : 東京都千代田区九段北 4-1-7 九段センタービル 8F
静岡工場 : 静岡県藤枝市谷稲葉 242-1
つくば研究所 : 茨城県つくば市東新井 29-9
東日本営業所 : 東京都千代田区九段北 4-1-7 九段センタービル 8F
東京支店 : 東京都千代田区九段北 4-1-7 九段センタービル 8F
名古屋支店 : 愛知県名古屋市東区葵 3-22-8 ニューザックビルディング 4F
大阪支店 : 大阪府大阪市淀川区宮原 2-14-10 中尾ロイヤルビル 4F
福岡営業所 : 福岡県福岡市中央区天神 4-2-20 天神幸ビル 7F

③活動レポートの対象期間及び発行日

2015年1月から2015年12月



3. 環境方針

環境方針

<基本理念>

株式会社バスクリンは、自然との共生を原点とする企業として、地球環境・地域環境に配慮し、健やかで心地よい生活を提供するため、下記の行動指針に基づき全社一丸となって自主的・積極的に、環境保全活動に取り組みます。

<行動指針>

1. 当社の事業活動において、開発・生産、販売・物流、使用、廃棄の各段階における環境負荷の低減に資する活動を積極的に進めるため、次の項目を重点管理として取り組みます。
 - 1) 環境配慮型製品の開発設計
 - 2) 環境配慮型製品の販売促進
 - 3) 電気・燃料の消費に伴う二酸化炭素排出量の削減
 - 4) 廃棄物の3R（減量、再使用、再利用）の推進
 - 5) 節水の推進
 - 6) 化学物質の削減
 - 7) グリーン購入の推進

これらの項目について環境目標・活動計画を定め、環境経営システムを確立し、継続的な改善と汚染の防止に努めます。

2. 環境関連法規、規制及び当社が同意するその他要求事項を遵守します。
3. 環境への取組みについて、環境活動レポートを作成し公表します。

制定日：2010年2月15日

改訂日：2011年4月1日

東京都千代田区九段北 4-1-7 九段センタービル 8F

株式会社バスクリン

代表取締役社長 古賀 和則

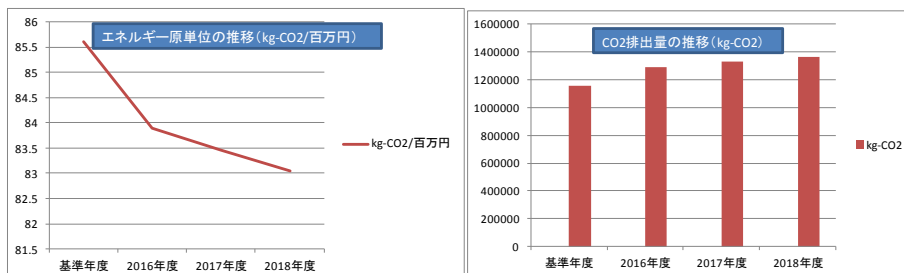
4. 環境目標とその実績

4.1 3カ年環境目標（2016年度～2018年度）

	項目 (部門)		単位	基準年度 (2012年度)	2016年度	2017年度	2018年度
1	二酸化炭素排出量 削減（全社） （電力、ガソリン から算出）	原単位	kg-CO2/百万円	85.61	83.90	83.47	83.04
		基準年度比	%	—	▲2.0	▲2.5	▲3.0
		実量	t-CO2	1,158	1,291	1,332	1,366
	消費電力の削減	原単位	kwh/百万円	150.2	154.6	153.8	153.0
		基準年度比	%	—	2.90	2.39	1.84
		実量	kwh	2,031,434	2,380,000	2,456,000	2,516,400
	ガソリン使用量の 削減	原単位	L/百万円	8.853	7.286	7.245	7.240
		基準年度比	%	—	▲17.7	▲18.2	▲18.2
		実量	L	119,695	112,200	115,700	119,100
2	産業廃棄物 排出量の削減 （静岡工場+ つくば研究所）	原単位	k g/百万円	87.72	85.97	85.53	85.09
		基準年度比	%	—	▲2.0	▲2.5	▲3.0
		実量	t	1,186	1,324	1,366	1,400
3	排水量の削減 （静岡工場+ つくば研究所）	原単位	m ³ /百万円	0.3484	0.3415	0.3397	0.3380
		基準年度比	%	—	▲2.0	▲2.5	▲3.0
		実量	m ³	4,711	5,259	5,426	5,560
4	グリーン調達 （文房具） （全社）		グリーン購入率 （%）	— （基準が違うた め比較できず）	70%	75%	80%
5	環境人材の育成 （全社）		エコ検定合格者数	44名 累計186名	5名	5名	5名
6	環境配慮型製品の 開発設計 （つくば研究所）		—	—	包材重量減量化 検討	包材重量減量 化検討	包材重量減量 化検討

購入電力の二酸化炭素排出係数は、東京電力の0.433kg-CO2/kWh（2011年）を採用。

ガソリンは2.322kg-CO2/Lでの計算値を示した。



4.2 活動実績（2015年度1月～12月）

	項目 (部門)	単位	2015年度 1月～12月 計画値	2015年度 1月～12月 実績値	評価	達成状況コメント
1	二酸化炭素 排出量削減 (全社)	kg-CO2	1,141,000	1,253,631	×	電力量の増加により計画値に対して9.8%オーバーとなった。
	CO2参考 (売上原単位)	kg-CO2/百万円	72.22	86.52		
	消費電力の 削減	kwh	2,004,000	2,310,979	×	静岡工場での生産量の増加により、合計で計画値に対して15.3%オーバーした。
	電力参考 (売上原単位)	kwh/百万円	126.8	159.5		
	ガソリン使用 量の削減	L	117,900	108,948	○	テレマティクスの全営業車への導入及びハイブリッドカー8台導入の結果、計画値に対して▲7.6%となった。
	ガソリン参考 (売上原単位)	L/百万円	7.462	7.519		
2	産業廃棄物排 出量の削減 (静岡工場+ つくば研究所)	t	1,079	1,185	×	返品等の増加により、計画値に対して9.8%の増加となった。
	産廃参考 (売上原単位)	kg/百万円	68.29	81.81		
3	排水量の削減 (静岡工場+ つくば研究所)	m ³	4,523	4,422	○	効率の良い生産計画の立案を行い、また社員の節水意識が高まり、部品洗浄作業の見直しの効果が出てきている。
	排水参考 (売上原単位)	m ³ /百万円	0.2863	0.3052		
4	環境配慮型製 品の開発設計 (つくば研究 所)	-	-	-	○	薬用ソフレの製剤の濃厚化・コンパクト化を行い、容器の資材使用量を削減しプラスチック使用量を本体で約12%、つめかえ用でプラスチック使用量を約38%削減した。
5	販売促進物の 廃棄量低減 (本社)	千円	681	0	○	販売促進物数量の適正化と使用促進活動を積極的に実施した。

購入電力の二酸化炭素排出係数は、東京電力の0.433kg-CO2/kWh(2011年)を採用。

ガソリンは2.322kg-CO2/Lでの計算値を示した。

有価物数量推移 (リサイクル)

(kg)

	2012年	2013年	2014年	2015年
段ボール	116,190	118,237	120,511	127,497
紙類	6,990	4,384	4,770	3,560
プラスチック類	39,546	53,205	74,328	41,638
金属類	13,660	21,123	16,457	13,333

※紙類：雑誌、新聞紙、シュレッターゴミなど

プラスチック：ビニール袋、ストレッチフィルム、プラスチックコンテナ、パレットなど

金属類：ドラム缶、一斗缶、機械設備など

5. 2015年度の主要な環境活動計画（具体的取組内容）

	環境目標 (部門)	活動計画 - 具体施策 -
1	電気使用量の削減 (全社)	<ul style="list-style-type: none"> ・日中、不要時の消灯、電源 OFF ・室温管理（冷房：28℃ 暖房：20℃） ・週3回ノーマル残業デーの徹底 ・非使用時の会議室空調停止
2	産業廃棄物 排出量の削減 (静岡工場+ つくば研究所)	<ul style="list-style-type: none"> ・香料切替え時の洗浄廃液の抑制 ・分別による有価物への転換 ・フレコン袋のリユース再使用の推進 ・工場での適切な分別処理実施 ・試作規模を毎回精査
3	排水量の削減 (静岡工場+ つくば研究所)	<ul style="list-style-type: none"> ・月一回の漏水点検の徹底 ・部品洗浄時の水使用削減 ・節水便器の導入 ・節水の呼び掛け ・入浴剤評価実験の効率化検討 ・装置・機器洗浄における水使用量の削減
4	販売促進物の 廃棄量低減 (本社)	<ul style="list-style-type: none"> ・販促物作成数量の適正化 ・適宜使用の促進

6. 環境活動の前年度結果との比較評価（2015年1月～12月の活動結果）

	項目 (部門)	(前年度同期比) 達成：○未達成：×	取り組み結果の評価コメント
1	電気使用量の削減 (全社)	×	日中、不要時の消灯、室温管理（冷房：28℃ 暖房：20℃）、週3回ノー残業デーの徹底、非使用時の会議室空調停止等は昨年引き続き実施したが、静岡工場での生産量の増加により、昨年実績と比較して2.2%増となった。
2	産業廃棄物 排出量の削減 (静岡工場+ つくば研究所)	×	製品返品の廃棄物が増加した為、昨年実績と比較して9.6%の増となった。
3	排水量の削減 (静岡工場+ つくば研究所)	○	工場において、部品洗浄方法の改善により、昨年実績と比較して2.4%減となった。
4	販売促進物の廃棄量低減（本社）	○	各担当部署・営業部門が適宜に販売促進物を使用し、廃棄物を低減するように努力した。

7. 2016年1月以降の取り組み内容

	環境目標 (部門)	2016年度の環境活動の取り組み内容
1	電気使用量の削減 (全社)	特に夏場の消費電力削減の取り組み強化 <ul style="list-style-type: none"> ・室温管理（冷房:28℃ 暖房:20℃） ・非使用時の会議室の空調停止 ・使用していない電源 OFF ・週3日のノー残業デーの継続 ・日中の窓側蛍光灯の消灯 ・構内外灯の点灯時間短縮及び点灯本数の半減
2	産業廃棄物 排出量の削減 (静岡工場+ つくば研究所)	<ul style="list-style-type: none"> ・分別による有価物への転換 ・リユースの推進 ・製造口スの発生を少なくするための効率的な生産体制を強化 ・試作規模を毎回精査
3	排水量の削減	<ul style="list-style-type: none"> ・継続的な多面的節水行動

	(静岡工場+つくば 研究所)	<ul style="list-style-type: none"> ・月一回の漏水点検 ・入浴剤評価実験の効率化検討 ・装置、機器洗浄における水使用量の削減
4	販売促進物の廃棄 量低減（本社）	<ul style="list-style-type: none"> ・年度末に在庫を残さないよう、営業部門への情報提供
5	環境配慮型製品の 販売促進 （本社）	<ul style="list-style-type: none"> ・環境に配慮した詰め替え商品の販売促進を推進 ・使用促進 ・商談においての啓発
6	グリーン購入の推進 （全社）	<ul style="list-style-type: none"> ・環境対応マークの付いた文房具の購入を推進
7	化学物質の削減 （静岡工場+ つくば研究所）	<ul style="list-style-type: none"> ・化管法対象物質、主要化学物質の月次購入管理 ・有害廃液の適正な回収 ・有害試薬の削減 ・製剤ロスの削減
8	環境配慮型製品の 開発設計 （つくば研究所）	<ul style="list-style-type: none"> ・環境負荷を考慮した処方設計と環境負荷値の計測 ・処方決定での化管法対象原料の確認・承認 ・化管法対象物質減量処方の検討 ・包材重量減量化検討



8. 環境関連法規制への違反、訴訟等の有無

	該当する環境関連法規制	本 社	静 岡	つ く ば	確認 は○	遵守 評価
1	廃棄物の処理及び清掃に関する法律（廃棄物処理法） <ul style="list-style-type: none"> ・収集運搬・処分先との委託契約の締結及び許可証 ・マニフェスト伝票の発行及び返却期限管理 ・産業廃棄物交付票の状況報告（事業所ごと） 	●	●	●	○	違反 無し

2	毒物及び劇物取締法 ・ 毒劇物法定表示と毒物保管量管理		●	●	○	違反 無し
3	消防法 ・ 危険物の保管管理（届出指定数量以下）		●	●	○	違反 無し
4	容器包装リサイクル法 ・ 特定事業者としての帳簿の備えと5年間保管 ・ 主務大臣への定期報告 ・ リサイクル費用の支払い	●			○	違反 無し

●は対象地区

当社に関わる環境関連法規等の遵守確認の結果、違反はありませんでした。

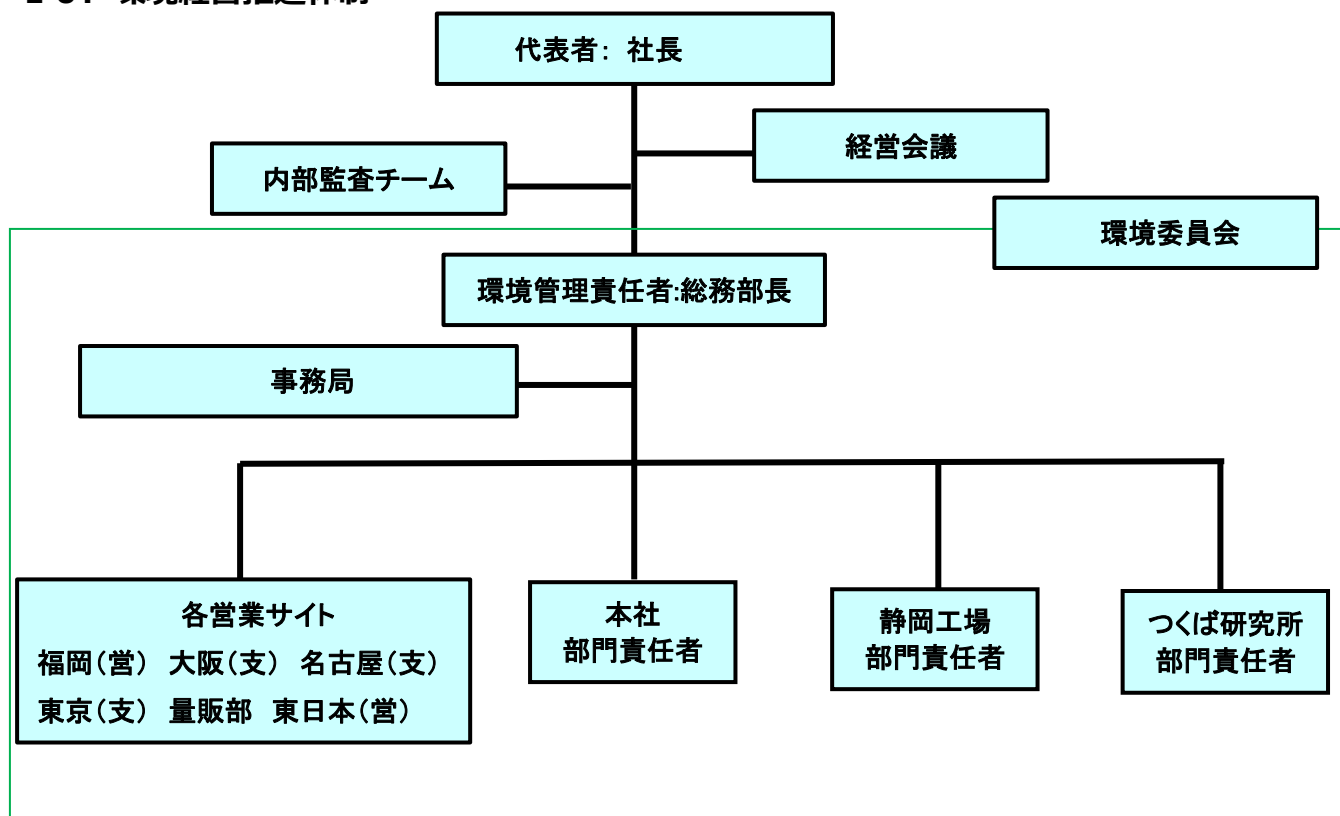
また、過去3年間にわたり関係機関からの指摘、利害関係者からの訴訟もありませんでした。

9. 代表者による全体評価と見直し結果

代表者による全体評価と見直しを2015年4月1日に実施し、下表の結果となりました。

	項目	見直しの有無	評価コメント
1	環境方針の見直し	無	現時点での方針の見直しは不要とする。
2	環境目標	無	現時点で活動目標は追加しない。
3	環境活動計画	無	活動目標については中期計画と実績を踏まえて検討する。
4	環境経営システム的な指示	無	現時点での活動に問題は無いと判断する。
5	全体評価コメント		環境方針の主旨を理解し、適切な目標の設定と対策の実施が図られている。 年間を通じて、全社的活動を継続する。

10. 環境経営推進体制



11. 環境省より表彰されました

環境省は、水循環基本法に基づき、健全かつ持続可能な水循環の構築に向けた民間の自発的・主体的取組みの促進を目的とした官民連携プロジェクト「ウォータープロジェクト」を推進しており当社の活動に対して、株式会社あらた様と共同で「奨励賞」を授与されました。



ご使用後の残り湯を、お洗濯にご利用されることを「ウォータープロジェクト」の“Water Style”として提案しました。当社の主力製品である入浴剤は残り湯を洗濯にも使用できることから、「水のリユース」の点で環境にもやさしい製品であること、また入浴剤の売り場提案等が高く評価されました。

12. 社内活動のトピックス

事業所周辺道路の清掃活動（本社オフィス）



社会貢献活動の一環として、「千代田区一斉清掃の日」に清掃活動に参加いたしました。
「千代田区一斉清掃の日」は千代田区が年に2回（6月6日と11月6日）設定しており、当日は千代田区に属する町会や学校、事業所など300を超える団体が参加する清掃活動です。



大型空調機を小型分散型空調機へ更新（つくば研究所）



不調のつくば研究所最大のビル用マルチエアコンを廃棄し、各室個別の分散型室外機エアコンに更新し、約60%の電気使用量の削減を実現しました。

事業所周辺道路の清掃活動（つくば研究所）



地域貢献活動の一環として、毎週月曜日に事業所の回りの歩道・道路の清掃を行っています。

電力の購入先を発電時の二酸化炭素発生量の少ない新電力へ変更（静岡工場・つくば研究所）

2015年4月に静岡工場が、6月につくば研究所が、発電時の二酸化炭素発生量が約10～15%少ない新電力に電力購入先を変更し、環境負荷の低減を実現しました。

13. 工場での取り組み

静岡工場ではCSR活動の一環として工場見学を積極的に行っています。



工場生産ラインの説明



入浴剤手作り体験風景

	見学件数	見学者数
2015年実績	68件	1,078名
累計（2011年4月～）	356件	5,512名

中学生工場体験学習



また地域貢献活動の一環として定期的に工場周辺の清掃作業を行っています。



■環境活動レポートに関するお問い合わせ先
株式会社バスクリン 総務部CSR推進グループ
〒102-0073 東京都千代田区九段北 4-1-7 九段センタービル 8F
TEL: 03-3511-5811 FAX: 03-3511-5820
次回環境活動レポート発行予定：2017年4月 第8号